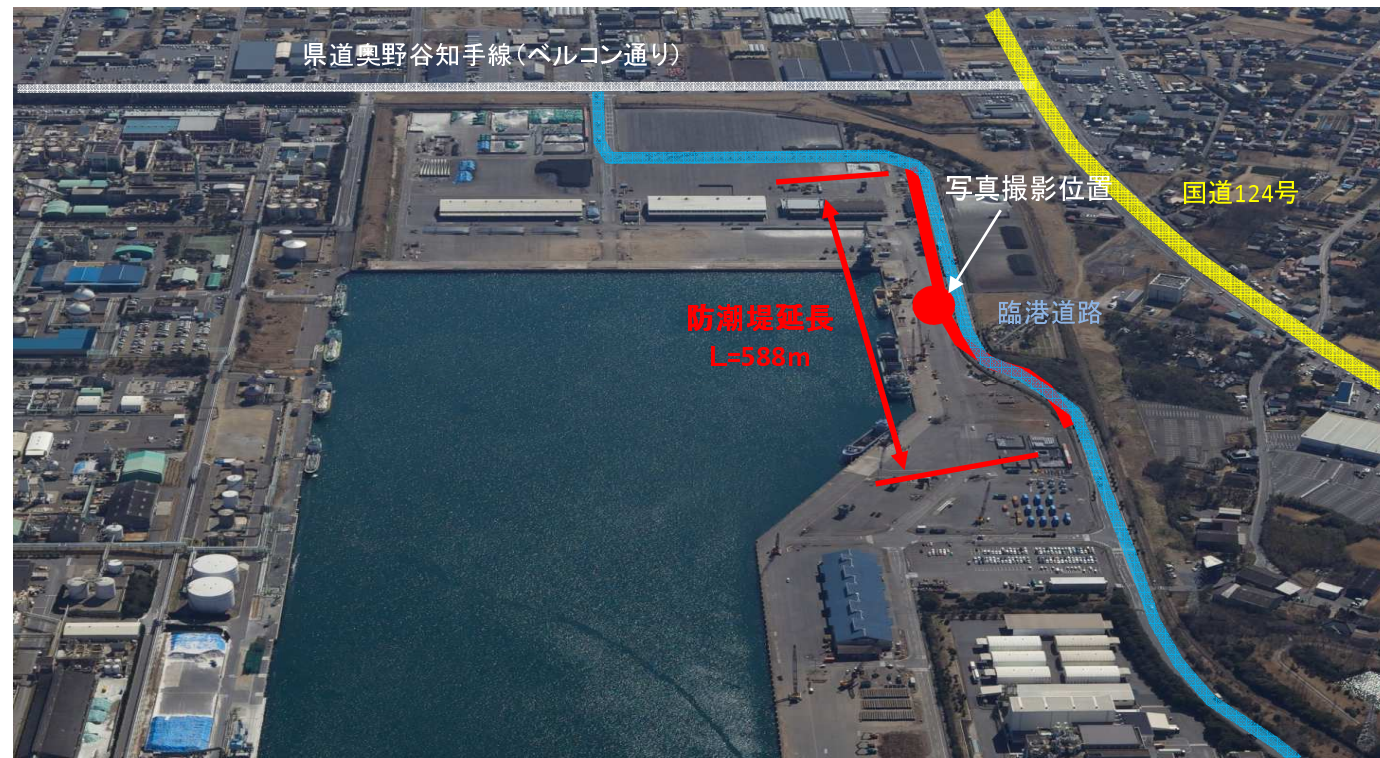


# 鹿島港南公共埠頭地区における津波対策について

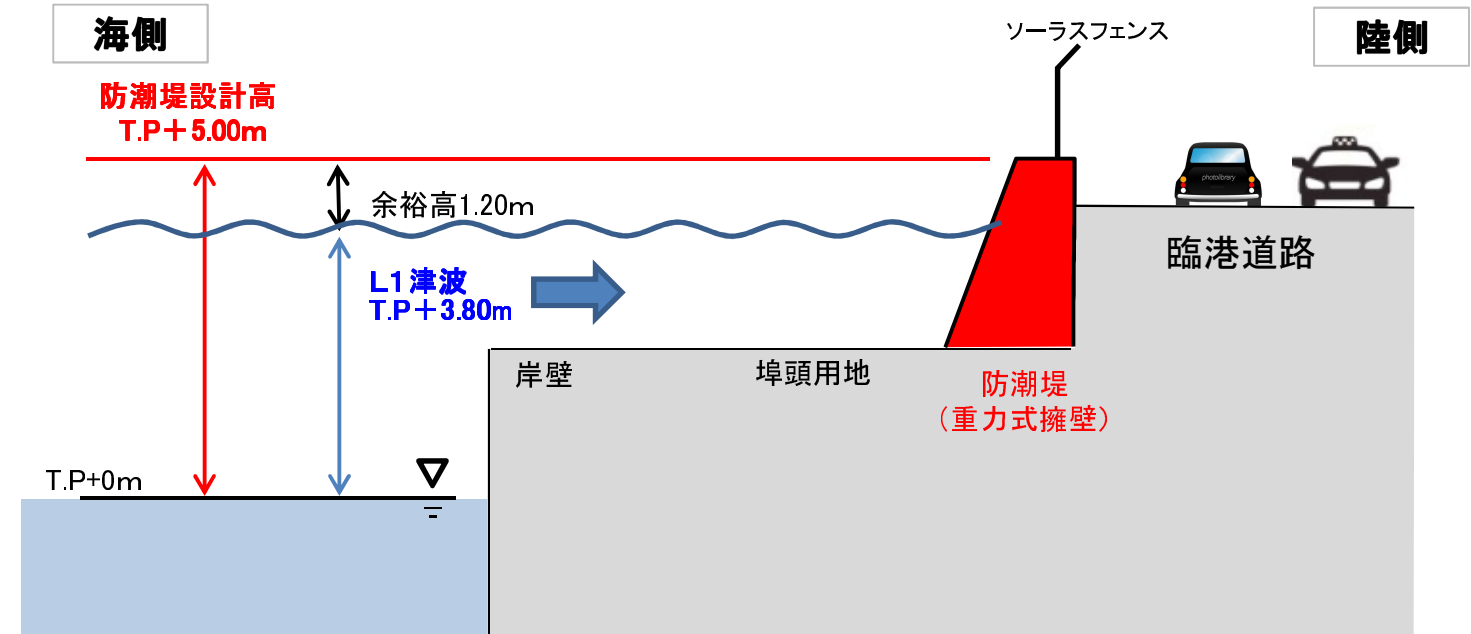
## 防護ライン(施設の設置位置)の設定

- 人命・財産の防護を目的に、岸壁や背後の荷捌き地の一体的な利用を考慮し、臨港道路沿いへ配置。
- 南公共埠頭は防潮堤の用地確保が難しく、最低限の用地幅で施工するため、重力式擁壁を採用。



## 防潮堤の構造

本体：重力式擁壁(コンクリート擁壁)



## 着工前



## 完成後



## 着工前



## 完成後



## 津波対策の考え方

### 比較的頻度の高い津波(L1津波)

- 津波レベル
  - 発生頻度が高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波(数十年から百数十年の頻度)
- 基本的考え方
  - 人命・住民財産の保護、地域経済の確保の観点から、防護施設等を整備

### 最大クラスの津波(L2津波)

- 津波レベル
  - 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波
- 基本的考え方
  - 住民等の生命を守ることかを最優先とし、住民の避難を軸にとりうる手段を尽くした総合的な対策を確立していく  
(茨城県沿岸津波対策検討委員会より)